

基本目標3 「潤い・快適・活力」のにぎわいのまち

分野別政策8 豊かな自然と暮らしが調和する環境づくり

施策 No. 21 自然環境の保全・活用

10年後のめざす姿 自然環境や生物多様性の保全についての市民の理解が深まり、本市の貴重な財産として守られ、都市と自然が調和した暮らしやすいまちとなっています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「自然環境への配慮」に関する市民満足度	19.9	%	目標値	20.3	20.0			22.0	24.0	↘
			実績値	19.0						
2 河川一斉清掃の参加者数	1,324	人	目標値	1,350	1,360			1,400	1,500	○
			実績値	1,370						
3 はがき絵コンクール応募者数	5,908	人	目標値	5,810	5,850			5,950	6,000	○
			実績値	5,820						

総合評価	住みよさ指標の状況
B	住みよさ指標のうち、「自然環境への配慮」に関する市民満足度については、目標値を下回ったが、「河川一斉清掃の参加者数」及び「はがき絵コンクール応募者数」については、目標値を達成することができた。河川一斉清掃やはがき絵コンクールについては、教育機関や自治会等の協力もあり、市の恒例行事として定着してきていると思われる。「自然環境への配慮」に関する市民満足度については生物多様性の保全等、人と自然との共生に対する市民の理解を深めていく必要がある。

施策を構成する事業の状況

自然保護団体との連携事業としては、夏には水生生物観察会、秋には探鳥会、春には野草を使った料理教室を開催する等、四季折々に自然環境と触れ合うことができる機会を市民に提供している。

一方、能動的な意識啓発、実践事業として、はがき絵コンクールや河川一斉清掃を開催し、多くの市民に環境保全活動の必要性を理解し、実践する機会として長年にわたり提供してきた。

市内の人口は減少傾向にあるが、市民団体とともに啓発活動を行ったことにより、市民との協働による環境保全に取り組むという、めざすべき姿の実現に向けて進んでいる。

これまでの取り組み	市民団体との協働により、自然環境調査を行うとともに、市民に対して自然環境と触れ合う機会を提供してきた。また、はがき絵コンクールを開催することにより、若年層から環境保全とは何かを考える機会も提供してきた。 生物多様性の保全については、特定外来生物であるアライグマの捕獲を推進し、農林業や生活環境の被害を軽減するとともに、在来種の保護を推進している。
課題 (めざす姿との差)	「自然環境への配慮」に関する市民満足度を向上させると同時に生物多様性の保全等、人と自然との共生に対する市民の理解を深めていく必要がある。
今後の方向性	体験型の環境学習を取り入れて自然保護推進事業を充実させていくことで、自然との触れ合いを促進し、市民の自然に対する理解を深めていく。また、生態系に悪影響を及ぼす特定外来生物の捕獲等に取り組み、多様な在来種の保護を推進していく。 より多くの市民が自然保護推進事業の必要性を認識し、恵まれた自然環境が本市の魅力であることを誇れるよう、更なる意識啓発と実践活動の推進を図っていく。